PARAIASAM

第 4 5 期 中 間 報 告 書 (2007年4月1日~2007年9月30日) 2 0 0 7 年 1 1 月 発 行



株主・投資家の皆さまへ

次世代半導体の実現へ。「光」がものづくりたでを変える。、気極の「光」、のでは、

える。〜光と半導体のこれから〜ジづくりを変える。

ウシオ電機株式会社

EUV光源

PARAIASAM

PRISM (プリズム) は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

第45期中間報告書 C o n t e n t s

光のものがたり	1
光テクノロジー&フロンティア	3
ごあいさつ	6
ウシオグループトピックス	8
第45期中間期の事業の概況	9
数字で見るウシオ	10
連結決算	11
株式の状況	13
会社概要	14

光のものがたり

半導体の微細化技術が進むにつれて、 携帯電話やテレビ、ゲーム機は ますます小型化・薄型化するとともに、 より高機能になっています。 かつては数10センチ四方の基板に数10個程度の 電子回路をのせるのがやっとだったのに対し、 今や、わずか数ミリ四方のチップ内に 何万個という半導体素子が組み込まれています。 この微細化技術を可能にしたのが、 「光」なのです。

半導体の歴史は、微細化の歴史

"半導体の集積密度は、ほぼ2年で倍増する"。世界最大の半導体メーカーIntel社の創設者ムーア氏が提唱した「ムーアの法則」に沿って半導体は進化し、私たちの身近な製品に革新をもたらしてきました。

例えばパソコン。20年前の動作速度はせいぜい10MHzでした。 現在は3GHz以上となり、何と3000倍も増えたことになります。 さらに、記憶媒体も1MBのフロッピーディスクから、TB(1テラバイト:1,000GB)以上のハードディスクへと、何と100万倍という 驚異的な進化を遂げています。

また、通信、ゲーム、音楽、テレビ、キャッシュカードなどの機能を、 わずか約100gという重さに搭載した携帯電話のデジタルカメラ の画素数は、発売当時のデジタルカメラの25万画素をはるかに 超える500万画素にまで達しています。

このように小型化・薄型化、高性能化、多機能化を可能にしてきた半導体ですが、その歴史は、「光」の微細化の歴史でもあるのです。

光がつくる半導体

シリコンウェハ

わずか数ミリ四方のチップである半導体には微細な回路が刻まれており、そこに何万個という半導体素子が組み込まれています。 チップを小さくし、かつ半導体の性能を向上させるためには、回路をより細く、より多く描き、そこに組み込む半導体素子を増やせばよいのですが、そのためには、回路の線幅をつくりだす光の微細

化が必要不可欠なのです。

回路の線幅は光の波長によって決まり、波長が短ければ短いほど、微細な回路が形成できます。そのため、1960年代のIC(集積回路)誕生時には、ランプの発するg線(波長436nm*)で線幅500nmの回路だったのが、1990年代にはランプのi線(波長365nm)で300nmに、さらに現在ではレーザ(波長248nm/193nm)で線幅90nmへと、光の波長を短くして微細化を達成してきました。(*nm=ナノメートル 10億分の1メートル)



そして今、回路線幅45nm以下を作り出す光技術に注目が集まっています。その実現の最有力にある光が、日本、米国、欧州で国家規模の開発が進められている「EUV(極端紫外光:波長13.5nm)」です。このEUVが実用化されれば、1枚のチップに数十億の電子回路をもつマイコンや、数百億ビット(記憶の単位)のメモリなどが実現し、半導体はさらに小型化・薄型化、高性能化、多機能になります。健康チェックをしてくれる腕時計タイプの携帯電話、自動車の自動運転システム、テレビの3D映像配信、長寿命な燃料電池など、現時点では想像もつかないような製品や機能が登場するかも知れません。

ICからLSI(大規模集積回路)、超LSIそして次世代半導体へと 進化する半導体製造を支えてきたウシオは、この次世代半導体の 実現へ向け、新しい光「EUV」の開発を推進しています。

光テクノロジー&フロンティア

究極の「光」、 次世代半導体の実現へ

半導体業界では、回路線幅45nmを切る次世代露光技術が注目のまと。 その最短距離にあるのが波長13.5nmの極端紫外光源「EUV」です。 ウシオは、日本の国家プロジェクト「EUVA*」に参画し、開発に取り組んでいます。 今回は、EUVAの小川真佐志専務理事のお話とともに、 その開発の様子をご紹介します。

※EUVA:Extreme Ultraviolet Lithography System Development Association 技術研究組合 極端紫外線露光システム技術開発機構



携し、日本発の技術として早期実用化を実現するためにEUVAが設立され、ウシオにはその光源部分の開発を担っていただいています』(小川専務理事)

DPPとLPPの両面からアプローチ

EUVを発光させるには、LPP(レーザ励起方式)とDPP(放電方式)の2方式があり、EUVAは世界で唯一、両方式の開発を手がけています。LPPは、クリーンでエネルギー効率が高く、パワーアップしやすいのが特色。DPPは、放電により直接、EUVを生成できるので装置がコンパクトになるのが大きなメリットです。ウシオグループでは、ウシオ電機がクセノンランプで培った放電技術を活用して、DPPのハイパワー化に挑んでおり、ギガフォトンがレーザの技術を活かしてLPPの開発に取り組んでいます。

日本発のEUV露光技術を目指して

EUVAは、経済産業省、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)により2002年6月に設立され、ウシオ電機とギガフォトン、コマツ、装置メーカーのキヤノン、ニコン、デバイスメーカーの東芝、富士通、NECエレクトロニクス、ルネサステクノロジの9社が参画し、EUV露光技術の開発を進めています。(理事長はウシオ電機会長牛尾治朗)

半導体の微細化は、露光用光源の短波長化への開発の歴史といえます。光源は、436nm、365nm、248nm、193nmと短波 長化が進み、加工線幅90nmを切るレベルまできましたが、さら に線幅45nm以下に微細化するには新光源が求められています。 その最有力の光源がEUVで、波長は一挙に10分の1以下の13.5nmになります。

『このEUV露光技術は1986年 に日本で提案されたもので、現在、 その実用化一番乗りに向けて世界 各国で開発競争が続けられています。 まったく新しい技術のため、解決す べき課題が数多くあり、一企業だけ では厳しい開発競争を勝ち抜くこ とはできません。そこで、各社が連



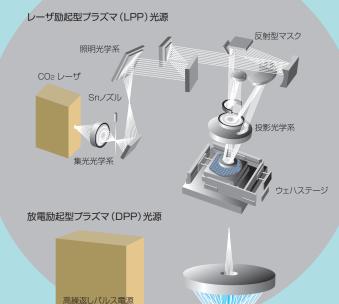
≨UVΛ EUVA専務理事 小川 **眞佐志** 氏

線幅26nmを達成

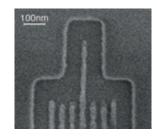
2006年度、DPP光源と2枚ミラーの投影光学系を試作し、これを使ったSFET (小面積露光装置)により、線幅26nmが達成されています。さらに、EUVAの最終目標として2008年3月に、ベータ機 (実用試験機)に対応する集光点出力50Wレベルの性能達成もすでに視野に入っています。

『ウシオには、露光光源と高出力放電ランプの技術的蓄積を生かしたノウハウを提供していただいています。開発は、世界に先駆けて実用化し市場をリードすることが重要です。そのためにも、光源開発のキーを握るウシオをはじめ、参画企業の共同研究にいっそう期待しています』(小川専務理事)

■EUV露光装置の構成



集光光学系



SFETで露光したハーフ・ピッチ 26nmのパターン(提供 Selete)

放電ヘッド

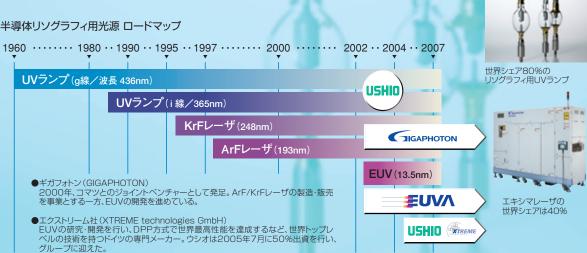
3 PRISM 45

EUVを搭載した量産タイプの露光装置では、1時間に100枚の 300mmウェハを処理するために115W以上の出力パワーが求 められます。産、官、学の叡智の結集であるEUVAの下、ウシオは 実用化に向けてさらに開発を進めていきます。

導体微細化とウシオの[光]

ウシオグループは、1960年代のIC黎明期以来、あらゆ る露光光源を提供してきた世界唯一の企業として、今後 も露光光源の最先端を究めるとともに、生産性・コスト・ 信頼性の向上につながる「光」技術を開発し、エレクトロ ニクス産業の発展に貢献していきます。

■半導体リングラフィ用光源 ロードマップ



NEWS

日・蘭・独の研究開発体制が融合 一DPP方式によるEUVの開発加速へ一

本年10月、EUV光源のさらなる開発強化へ向け、ウシオとオランダのフィリップス社、ドイツのイエナオプティクス社が、業務 提携を結ぶことに合意しました。 (⇒詳細は7ページをご覧ください。)

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、日頃より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。 第45期中間期(2008年3月期中間期)における業界環境と当社の概況、 2010年に向けた「中期ビジョン」の進捗状況をご紹介申しあげます。



代表取締役社長·CEO 菅田 史朗

引き続き、増収増益を実現

当中間期における日本経済は、原油や素材価格の高騰や個人 消費低迷などの懸念材料を抱えながらも民間設備投資が底堅く、 米国経済に減速感は出ていますがアジア経済の好調もあって、全 体として拡大基調で推移しました。

ウシオグループの関連市場では、液晶関連は投資延期とパネ ル価格の下落の影響により光学・露光装置の売上が減少しました。 一方、半導体市場は引き続き堅調に推移し、装置・ランプとも好調で、 とりわけリプレイスランプが大きく伸長しました。さらに、グループのギ ガフォトンが提供するエキシマレーザも大きく売上を伸ばしました。

データプロジェクタ市場は、海外市場を中心に需要が拡大して いるものの、競争激化がより一層鮮明になってきています。当グ ループにおいては、性能パフォーマンスに優れたACタイプ(交流 点灯方式)ランプに力を注いで新規受注を開拓する一方、既存 のDCタイプ(直流点灯方式)は海外展開による生産性向上と製 造コスト低減を図り、売上増と収益性確保に努めてきました。

シネマ市場では、当グループが北米を中心に展開してきた「デジ タルシネマ普及促進プログラム | が一段落しましたが、これが呼び 水となって世界各地で映画の製作・配給におけるデジタル化の動 きが進展しており、次なるステージに向けて準備を進めています。

さらに、ウシオグループでは、将来に向けた新技術・新製品開発に 向けた積極的な投資を継続しており、海外での需要拡大に応える 海外への生産移管、生産性の向上や製造コストの低減、グローバ ルな販売体制の整備・拡充に、グループをあげて取り組んできました。

これらの結果、第45期中間期の連結売上高は、744億円(前年 同期比3.5%增)、営業利益108億円(同2.6%增)、経常利益131億 円(同0.3%増)、中間純利益85億円(同0.3%増)を計上しました。

2010年「中期ビジョン | 達成に向けて

ウシオグループでは、2007年4月に新「中期ビジョン」を公表し、 2010年3月期には「売上高1.900億円、営業利益285億円、ROE(株 主資本利益率)10%以上 | を目標としています。その実現に向けた

5 PRISM 45

重点戦略目標として「デジタルシネマ事業の普及促進と収益拡大」 「ソリューションビジネスの拡大」「データプロジェクタ用ランプのシェア 拡大 | 「液晶・半導体製造を支える製品の拡充 | 「最先端露光事業 (EUV:極端紫外光源)開発強化 | 「新製品・新分野の早期事業化 | を掲げています。

今中間期においても、デジタルシネマ普及促進の新たな施策 づくり、高品質・高収益製品の開発、御殿場事業所のG3棟の建 設による液晶・半導体製造に関わる各種装置の生産効率改善、 半導体製造用次世代光源EUVの開発などに鋭意取り組んでま いりました。

今後も、ウシオグループとして、「映像・画像事業 | 「処理(プロセ ス) 事業 |を中心に、品質重視のもと、海外生産移管と徹底したコ スト低減、販売体制の整備・効率化、強みである光源・光学技術を 活用したハイテク分野での研究開発強化などの諸施策を推進し、 中期ビジョンの目標達成に向けていっそう邁進していく所存です。

通期見通しは期初予測を堅持

第45期通期の見通しにつきましては、国内経済は緩やかな成 長が継続すると見込んでいますが、年度内の利上げ観測や米国 経済の減速懸念などもあって予断を許さない状況にあります。これ に対して、ウシオグループとしては各事業において諸施策を積極 的に推進して、グループ全体のさらなる事業基盤の強化を推進し ていきます。加えて、経営の透明性と効率性の確保、環境負荷低 減など社会的責任も果たしてまいります。

通期の見通しは、期初にご紹介しました連結売上高1.550億円(前 期比2.3%增)、営業利益210億円(同6.4%增)、経常利益255億円(同 1.4%増)、当期純利益169億円(同2.1%増)を達成したいと考えて おります。

株主の皆さまには、今後ともいっそうのご理解とご支援を、心から お願い申し上げます。

NEWS

フィリップス、イエナオプティックと業務提携

一次世代光源EUVを共同開発一

ウシオは今年10月30日、次世代の微細な半導体製造に求められる極端紫外光源 EUVを共同開発するため、オランダの総合家電 メーカー「フィリップス」とドイツのレーザ及び光学機器メーカー「イエナオプティック」と業務提携することを発表いたしました。 ウシオとイエナオプティックが50%ずつ出資する、エクストリームテクノロジーズGmbH(以下エクストリーム)と、フィリップスの 子会社、フィリップスエクストリームUV GmbH(以下フィリップスEUV)の2社は、同じDPP(Discharge Produced Plasma:放電 生成プラズマ) 方式によるEUV光源の開発をそれぞれ進めてまいりました。両社はこれまでに研究用EUV光源を出荷しており、その 実績をもとに、2006年から2007年にかけて300mmウエーハを露光可能な、フルフィールド露光機に搭載されるα機を、主要取 引先に出荷しています。

このたび、世界で唯一、露光用の実用EUV光源の出荷実績があるエクストリームとフィリップスEUVが提携することにより、β機 (量産試作用光源)の開発速度を一層加速し、その後の実用EUV光源の開発と販売への道筋を確かなものにしてまいります。

ウシオグループトピックス

製造拠点の集約化により生産効率を向上

~ウシオ雷機御殿場事業所~

かねてより御殿場事業所内に建設していたG3棟が完成し10月25日 より正式に稼働を開始いたしました。液晶、半導体製造関連装置の大 型化にともない、充分な製造スペースを確保するとともに、これまでア ウトソースしていた製造拠点を集約化、生産の効率化と一層のコストダ ウンを図ります。

また横浜事業所から技術・設計部門を御殿場事業所内へ移管し、設計 から生産までを一体化することで、新たなシナジー効果が期待されて います。



G3棟外観 延床面積:13.890mg

CHKISTIE

WWW.CHRISTIE.JP

操船シミュレータで海の安全を守る

~クリスティ・デジタル・システムズ(CDS)~

海事専門コンサルタント会社(株)日本海洋科学が所有する操船シミュ レータに、CDSのMatrix3000が採用されました。同社は当初、操船 シミュレータを海事コンサル用のツールとして民間で初めて自社開発 しましたが、現在では、プロの船長、航海士を対象とした訓練用ツール としても利用されています。

CDSの製品は「リアルな映像と継ぎ目のない投影方式が良く、ひずみ 補正後の解像度が申し分ない」という評価をいただいています。

また、港湾に出入する船舶の安全航行に欠かせない水先人の養成訓練



MATRIX3000

用大型シミュレータ にもCDSのプロジェ クタが導入され、海 の安全にも大きく貢 献しています。

夢のショーを幻想的に演出

~ウシオライティング~

2007年6月から9月まで国内6大都市で開催された夢のスペクタ クルショー「YUMING SHANGRILA」(ユーミン シャングリラ)で、 映像・照明やさまざまな効果を一括管理・コントロールするウシオラ イティングの「DL.2」12台が使用されました。最新のグラフィック技術

> と高輝度プロジェクタ、高性能ムービ ングライトを一体化した「DL.2」は、 3次元空間に幻想的な世界を創りだ して、雰囲気を盛り上げ、業界内でも 注目されています。

次世代ライティングシステム 「DL.21

省エネ効果アップで環境に配慮

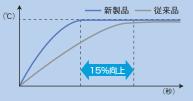
~高効率タイプハロゲンヒータ~

ウシオでは市場やユーザーのニーズに応える省エネ製品の開発を進 めています。

トナー定着用ハロゲンランプでは従来品に比べ熱効率を15%も向上 させた高効率タイプを開発、より環境にやさしい製品へと進化させて います。ウシオの省エネ、省スペース製品を始めとする付加価値の高 い製品を開発する姿勢は、業界でも高い評価をいただいています。

■高効率タイプハロゲンヒータの表面温度(当社製品比較)

※ヒータ点灯後、室温よりローラー表面温度が必要とされる温度に到達するまでの





7 PRISM 45 PRISM 45 · 8

●市場分野別売上高構成比

照明 8.9%

環境に配慮した製品など、付加価値の高い製品 が高評価。

OA分野 6.2%

高付加価値製品へのシフト、海外生産体制の強化、 コスト削減策が奏功し、売上増。

その他 7.8%

エレクトロニクス 30.6%

液晶・半導体分野のリプレイスランプ(交換需要) が堅調。

映像:画像 46.5%

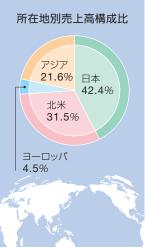
海外を中心にデータプロジェクタ市場が拡大。 データプロジェクタ用ランプの売上増。

●第45期の業績見通し

売上高 1,550億円 営業利益 210億円 経常利益 255億円 当期純利益 169億円

※上記の業績見通しは、今後の状況変化によって、数字が異なる場合があることをご了承願います。

所在地別の業績



9 PRISM 45

日本

液晶業界の投資需要低迷を受け、関連する光学 装置の売上は減少しましたが、液晶・半導体分 野での露光用紫外線ランプのリプレイス需要が 堅調で、売上高は、対前年同期比9.7%減の 371億3千4百万円を計上しました。

映像・画像事業において、映写機・光源・映像の 附帯設備などのハードウェアビジネスに加え、 保守や運用ソリューションビジネスを強化した ことが奏功し、売上高は、対前年同期比14.3% 増の275億9千3百万円を計上しました。

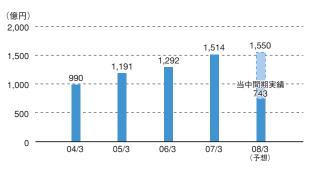
ヨーロッパ

一般照明用各種ランプ、シネマ映写機用クセノ ンランプなどの需要が堅調に推移し、売上高は、 対前年同期比11.3%増の39億2千7百万円 を計上しました。

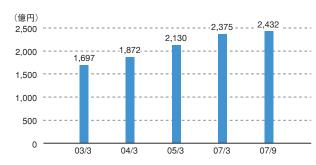
アジア

OA機器用希ガス蛍光ランプやハロゲンランプ の需要は一段落したものの、液晶・半導体分野 の露光用紫外線ランプやデータプロジェクタ用 高輝度放電ランプなどの需要が拡大し、売上高は、 対前年同期比13.3%増の189億3千万円を 計上しました。

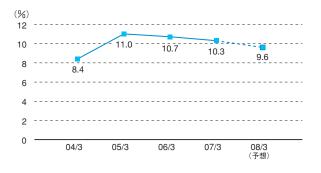
●連結売上高



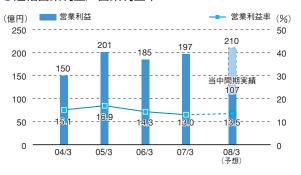
●連結総資産



●連結自己資本利益率(ROE)



●連結営業利益/営業利益率



●連結純資産/自己資本比率



●連結当期純利益/1株当たり当期純利益



※数字はすべて表示数値未満の位を切り捨てて記載しております。

PRISM 45 · 10

●中間貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

科目	第45期中間 (2007.9.30現在)	第44期 (2007.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	119,547	118,220
現金および預金	31,128	29,195
受取手形および売掛金	39,300	42,900
有価証券	4,924	6,567
たな卸資産	31,588	29,469
その他	12,607	10,088
固定資産	123,700	119,299
有形固定資産	38,051	36,142
建物および構築物	15,741	14,782
機械装置および運搬具	6,338	5,983
土地	8,854	8,805
その他	7,118	6,570
無形固定資産	2,753	2,142
投資その他の資産	82,894	81,015
投資有価証券	78,048	78,479
その他	4,846	2,535
資 産 合 計	243,248	237,520

●中間損益計算書(連結)

(単位:百万円)

第45期中間	第44期中間
(2007.4.1~2007.9.30)	(2006.4.1~2006.9.30)
74,362	71,828
48,448	47,771
25,914	24,057
15,159	13,578
10,754	10,478
3,057	3,027
728	458
13,083	13,048
0	1
879	56
12,203	12,993
3,585	4,373
97	122
8,521	8,497
	(2007.4.1~2007.9.30) 74,362 48,448 25,914 15,159 10,754 3,057 728 13,083 0 879 12,203 3,585 97

科 目	第45期中間 (2007.9.30現在)	第44期 (2007.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	49,552	45,076
支払手形および買掛金	17,273	21,220
短期借入金	11,342	6,865
その他	20,937	16,990
固定負債	21,524	21,706
長期借入金	20	_
繰延税金負債	17,996	19,496
その他	3,508	2,209
負 債 合 計	71,077	66,782
(純資産の部)		
株主資本	141,167	138,084
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	98,358	93,141
● 自己株式	△5,118	△2,984
評価·換算差額	30,066	31,761
その他有価証券評価差額金	28,292	30,594
繰延ヘッジ損益	_	42
為替換算調整勘定	1,773	1,124
_ 少数株主持分	936	891
純資産合計	172,170	170,738
負債および純資産合計	243,248	237,520

自己株式の取得

2007年9月、自己株式100万株を買い入れました。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●中間キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	第45期中間 (2007.4.1~2007.9.30)	第44期中間 (2006.4.1~2006.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,865	11,185
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,326	△1,879
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,703	△2,846
現金および現金同等物に係る換算差額	△192	205
現金および現金同等物の増加額(又は減少額)	4,051	6,663
現金および現金同等物の期首残高	25,122	22,701
現金および現金同等物の期末残高	29,174	29,365

●株主資本等変動計算書(連結)

(単位:百万円)

			株主資本				評価·換	算差額等		.1. 1// 1// 5	/. In 3 des
第45期中間 (2007.4.1~2007.9.30)	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価·換算 差額等合計	少数株主 持分	純資産 合計
2007.3.31 残高	19,556	28,371	93,141	△2,984	138,084	30,594	42	1,124	31,761	891	170,738
中間連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△3,304		△3,304						△3,304
中間純利益			8,521		8,521						8,521
自己株式の取得				△2,133	△2,133						△2,133
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						△2,302	△42	649	△1,695	45	△1,650
中間連結会計年度中の変動額合計	_	_	5,216	△2,133	3,083	△2,302	△42	649	△1,695	45	1,432
2007.9.30 残高	19,556	28,371	98,358	△5,118	141,167	28,292	_	1,773	30,066	936	172,170

(単位:百万円)

60° 4 4 40° ± 88			株主資本			評価·換算差額等			(1) 365 145 5	//± >/# ±=	
第44期中間 (2006.4.1~2006.9.30)	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価·換算 差額等合計	少数株主 持分	純資産 合計
2006.3.31 残高	19,556	28,371	79,350	△1,895	125,382	24,611	_	539	25,151	740	151,274
中間連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当(注)			△2,762		△2,762						△2,762
中間純利益			8,497		8,497						8,497
自己株式の取得				△1,073	△1,073						△1,073
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						2,544	51	709	3,304	103	3,408
中間連結会計年度中の変動額合計	_	_	5,734	△1,073	4,661	2,544	51	709	3,304	103	8,069
2006.9.30 残高	19,556	28,371	85,085	△2,968	130,044	27,156	51	1,248	28,455	843	159,343

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

11 PRISM 45 · 12

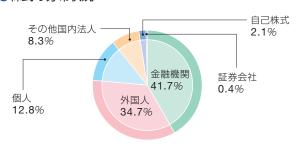
発行済株式総数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	139,628,721株
株主数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15,778名

●大株主の状況(200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,129	7.97
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,870	4.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,782	4.85
オーエム04 エスエスビー クライアント オムニバス	5,688	4.07
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	4,323	3.09
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83
#式会社りそな銀行	3,616	2.58
牛尾治朗	3,201	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (りそな信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,200	2.29
カセイス バンク オーディナリー アカウント	2,599	1.86
指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社1口	2,434	1.74
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	2,073	1.48

- ※上記のほか、当社が所有している自己株式2,959千株があります。
- ※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証 券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。 また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を 受けている口座を指します。

●株式の分布状況

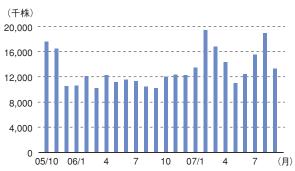


●株価の動き/株式売買高

■株価の動き



■株式売買高



設立/1964年3月 資本金/19.556.326.316円

●役員(2007年9月30日現在)

○ X X	111	
代表取締役会長	牛尾	治朗
代表取締役副会長	田中	昭洋
代表取締役社長	菅田	史朗
取締役	後藤	学
取締役	多木	正
取締役	大島	誠司
取締役	牛尾	志朗
取締役	多田龍	【太郎
取締役	伴野	裕明
常勤監査役	四分一	- 直
常勤監査役	中一	進
常勤監査役(社外)	物江	理

●従業員数(2007年9月30日現在)

監査役(社外)

監査役(社外)

 合計	4,616名
海外グループ計	2,430名
国内グループ計	490名
ウシオ電機本体	1,696名

●事業所一覧(2007年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
横浜事業所	横浜市青葉区
御殿場事業所	静岡県御殿場市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪市淀川区

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社 兵庫ウシオライティング株式会社 群馬ウシオ電機株式会社 筑波ウシオ電機株式会社 株式会社ジーベックス 株式会社ウシオスペックス ギガフォトン株式会社 日本電子技術株式会社 他4社

海外グループ会社

開発·製造

<米米>

• CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.

<欧州>

- BLV LICHT-UND VAKUUMTECHNIK GmbH
- XTREME TECHNOLOGIES GmbH

<アジア>

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

販売

服部 秀一

麻生 紘二

<北米>

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.

<欧州>

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO U.K., LTD.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO FRANCE S.A.R.L.

<アジア>

- USHIO KOREA, INC.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO.,LTD.
- USHIO SHANGHAI, INC.

他10社

株主メモ

決 算 期 3月31日

定 時 株 主 総 会 毎年6月

基 準 日 3月31日

その他必要があるときはあらかじめ公告

いたします。

利益配当金受領 3月31日

株 主 確 定 日 なお、中間配当制度は採用しておりません。

公告掲載URL http://www.ushio.co.jp/kokoku

※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。

日本性角和国に拘載いたしる。

株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社

1単元の株式数 100株株式銘柄コード 6925

●お問い合わせ先●

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-78-2031 (フリーダイヤル)

- ※住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および 配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名 簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホーム ページをご利用ください。
 - ●フリーダイヤル 0120-87-2031(24時間受付:自動音声案内)
 - ●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p 06.html

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。

http://www.ushio.co.jp

発行:ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1 TEL.03-3242-1815 FAX.03-3245-0589

